

土壌のダイオキシン分解

竹炭を使ったキノコの菌床

生活雑貨用品を製造販売する大木工藝(本社・大津市、大木武彦社長)は、竹炭を使ったキノコの菌床「写真」を開発した。キノコは菌糸をはる段階で化学物質を分解する作用があるとされ、同社は「ダイオキシンなどに汚染された地面に埋めこむことで、浄化の一助になるのでは」とし、自治体や企業などの需要を見込んでいる。

炭を使ったのはスポンジのような多孔質の組成が、菌の繁殖に適していると判断したから。炭はそのままではアルカリ性が強いため菌床に向かないが、おがくずやチツソ、グルコース、ステビアの粉末などを混ぜて加工しpH値を下げた。大きさは直径5センチから1センチのボール状。菌床は有機物質でできているため回収がいらす、年月がたつと地中



大木工藝 一石二鳥、6月にも商品化

と活性炭化する。自然のサイクルの中で、浄化を進めることができる」とし、調査結果をもとに今年6月にも商品化にこぎつける構え。

に還元されるといふ。すでに、ハタケシメシの菌糸体を菌床に接種し、十三、四度の温度下で菌糸の発生を認めており、実際のダイオキシン分解の効果は研究機関に調査を依頼しているという。

キノコのダイオキシンの分解効果については、大阪薬科大学がマイタケやエノキタケを使った実験で、ダイオキシンが三、四〇％分解した学会報告があり、九州大や愛媛大、広島県立大学でも同様の実験が行われ高い分解能力が示されている。

同社は「歩道に敷き詰めるブロックに加工して販売もできる。寒い間は菌は活動をとめるが、湿度が上がって暖かくなると



キノコ菌糸担持材
菌糸によるダイオキシン
P.C.B等の有害物質分解



キノコ菌糸担持材によるダイオキシン分解
立命館大学立木教授と共同研究